

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立南六郷小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・説明的な文章の学習では、読み取りの手順を示したり、重要な語句の見付け方を丁寧に指導したりしたことで、筆者の主張や主張を支える根拠に気付くことができるようになった。
- ・文章を書くときには、例文を提示し、初め・中・終わりのまとまりを意識した構成メモを作ることで、筋の通った文章を書くことができた。
- ・1分間スピーチや日記や短作文に取り組んだことで、話すことや書くことへの抵抗感を持つ児童が少なくなっている。漢字小テストをし、繰り返し学習することで漢字の読み書きの力が改善傾向にある。

(2) 課題

- ・その場に応じた適切な表現を用いて話し合いをし、考えを共有することに課題がある。日常的に言葉に関心をもたせて語彙力を付け、話し合いをした際には、グループで話したことを全体に伝える場を設ける手だてが必要である。
- ・児童が自分の考えを深め、伝えたい内容を明確にして表現することに課題がある。考えのもち方や視点を示し、表現の方法などを例示した上で、考えを深めるための時間をしっかりと確保する必要がある。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率(経年比較)

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第4学年	・知識・技能は目標値を5.6ポイント下回っている。思考・判断・表現は1.8ポイント下回っている。主体的に学習に取り組む態度は2.5ポイント上回っている。		
第5学年	・知識・技能は目標値を3ポイント下回っている。思考・判断・表現は5.5ポイント下回っている。主体的に学習に取り組む態度は6.6ポイント下回っている。	・知識・技能は1.9ポイント、思考・判断・表現は目標値を0.6ポイント、主体的に取り組む態度は6.1ポイント、目標値を下回っている。	
第6学年	・知識・技能は目標値を4.3ポイント下回っている。思考・判断・表現は7.9ポイント下回っている。主体的に学習に取り組む態度は6.7ポイント下回っている。	・知識・技能は1.9ポイント、思考・判断・表現は目標値を0.6ポイント、主体的に取り組む態度は6.1ポイント、目標値を下回っている。	・知識・技能は目標値を5.2ポイント、思考・判断・表現は0.2ポイント上回っている。主体的に学習に取り組む態度は7.9ポイント下回っている。

(2) 分析(観点別)

① 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を書く項目が目標値を下回っている。話し合いの内容の聞き取りや物語の内容の読み取りについて目標値を下回っている。調べたことをもとに文章を書くことは下回っているが、自分の考えを明確にして文章を書くことは上回っている。	・物語や説明文の内容の読み取りは、目標値を下回っている。 ・調べたことをもとに、文章を書くことは、7.3ポイント下回っている。 ・指定された長さで文章を書くことは、目標値を7.6ポイント上回っている。	・指定された長さで文章を書くことは、2.5ポイント上回っている。 ・自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書くことは、18.9ポイントと目標値を高く上回っている。

② 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・漢字を読む項目が目標値を下回っている。言葉の学習では、漢字の由来や対義語の理解、文脈に沿った漢字の使い方の分類が下回っている。	・書くことについては、すべての項目において目標値を下回っている。 ・読むことにおいては、説明文の構成を捉える以外の分類で下回っている。 ・話し合いの内容を聞き取りについては、目的に応じて話の内容を捉える問題が下回っている。	・無解答の反応率がすべての問題で、区の平均値を下回っている。 ・記述式で解答する問題では、無解答の反応率が区のおよそ2倍の数値になっている。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 短文作りや言葉集めを通して、言葉に関心をもたせる。 漢字や漢字の読みは、授業内容と家庭学習を連動させることで定着を図る。 短作文を繰り返し書く中で助詞の使い方の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 順序や理由を表す言葉や、文例を掲示することによって、分かりやすく書いたり話したりすることができるよう指導する。 児童が書いたり考えたりした内容を、授業の帯時間や朝の会などで1分間スピーチさせることによって、丁寧語で伝えられるような練習を繰り返しさせる。 友達同士で話し合わせたり、写真や絵を見せたりすることで、書く内容についての思いをふくらませる。また、それをどのように表現すると相手に正しく伝わるかを考えさせるために、学年に応じた語彙集やヒントカードを用いて、言葉の意味を確認させていく。 新しい言葉に出会う場面では、教師が意味や似ている言葉を伝え、正しく言葉の意味を理解できるようにする。その際には、写真や動画、動作化などを用いて、児童が視覚的に捉えて意味を理解できるように導く。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元のめあてを明確にして見通しをもたせるとともに、児童の感想をもとに興味関心の継続ができるように学習計画を立てる。 教師による読み聞かせや、朝読書などの図書時間を確保し、様々な文章に触れさせる。

(2) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 表現したり理解したりするために、必要な文字や語句について、国語のみならず全教育活動を通して辞書を利用して調べる習慣を身に付けさせる。 漢字の読み書きは、家庭学習と連動して繰り返し練習したり、漢字テストを細分化して行ったりすることで、定着を図る。 基礎的な言語事項は、東京ベーシックドリルやタブレットドリルを効果的に使用して定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 1分間スピーチ等の時間を帯時間で設ける。話型を例示し、「初め・中・終わり」の構成で話をメモ書きでまとめて話す練習を繰り返し行う。1分間スピーチで質問コーナーを設け、毎回質問や感想を言う。 「初め・中・終わり」のまとまりに気を付けて書かせ、まとまりごとに何を書くのかを考えさせる。その際、学んだ言葉を使うように声かけをしたり、表現の言葉一覧表を持たせて書かせたりする。また『書くって楽しいね』を計画的に活用する。語彙力を高めるため、同音異義語や形容詞を中心に指導をしていく。 分からない語句は必ず辞書で調べて正しく理解させる。また、経験に基づいて、どのような意味なのかを自身の生活に振り返りながら考えさせる。文章中の接続語の意味や、指示語はどこを指しているのか丁寧に指導する。物語においては自分に置き換えながら読むように指導する。また、日常的な読書量をなるべく確保し、語彙や表現方法を増やすようにする。 考えを整理する時間を設け、相手により分かりやすく伝えることができるようにする。また、観点を示し、順序や要点を意識して整理できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元計画では、児童の生活・学習経験を踏まえ、児童自身の願いや思いも組み入れた言語活動を設定する。 単元のめあてを明確にして、見通しをもたせるとともに、児童の感想や興味・関心をもとに学習計画を立てる。 日常的に短作文を書かせることで、自分の思いを書くことへの抵抗を減らせるようにする。

(3) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 漢字を「形」としてではなく、「言語」として捉えられるように、漢字の意味を確認させる。 家庭学習と連動して繰り返し練習させることで、漢字の読み書きの定着を図る。 基礎的な言語事項は、東京ベーシックドリルやタブレットドリルを効果的に使用して定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> あらゆる単元において、話し合い活動を取り入れ、多様な意見に触れる機会を増やす。相手の意見との共通点や相違点に注目させ、聞く能力を養う。また、立場を明確にした発表を意識させることで、自分の考えをもてるようにする。 まとまりのある話を聞き、複数の情報の整理をする活動を取り入れ、メモの大切さを理解させ、キーワードや記号化、箇条書きなどの効果的なメモの取り方を指導する。 詩や短歌、物語や随筆、意見文や報告文など様々な形式の文章を書く活動に取り組みせ、書くことへの抵抗感を減らすようにする。また、語彙力を高めるため、言い換えや比喻等の技法を指導する。 文章の構成を読み取るだけでなく、繰り返し出てくる言葉や接続語、前後の文脈から論の展開を捉えて読めるよう指導し、読み取った情報を整理させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元で取り組む言語活動において、相手意識、目的意識を明確にすることで、学習内容への関心をもたせる。 単元の導入では、児童の学習経験を踏まえ、児童自身の願いや思いも組み入れた学習のゴールを設定する。また、学習計画の流れを明確に提示し、見通しをもって学べるようにすることで意欲を高める。

